

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（ とうみし 東御市教育委員会 ）

1. テーマ

どの児童も自らの力を最大限に発揮し、意欲的に学習に取り組むための教育環境と指導法のあり方について検討

2. 問題意識・提案背景

東御市では、「発達障害児支援システム」の一つとして5歳児発達相談会を実施し、早期から発達障害の可能性に気づくこと、さらにはその子の特性に配慮した適切な支援の重要性が見えてきた。彼らを受け入れる小学校でも、発達障害の可能性のある児童がその困難を顕在化させる前から、その特性に配慮した適切な支援が重要であることは変わらない。しかし現状では特別支援学級での個別支援以外に、通常学級の中で彼らの特性を理解し配慮した授業を行うまでには至らないことが多い。その結果、授業中の飛び出しなどの行動面での不適応や学習の理解のつまずき、ひいては不登校につながっていくことも少なくない。

これに対し、教員の対応力が追いつかず、個別対応が必要であったり、多くの特別支援教育支援員の配置を必要としたりしている状況である。

3. 指定校について

(1) 田中小学校

指定校名：田中小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	71	3	91	3	72	3	95	3	87	3	87	3
特別支援学級	児童数19, 学級数3(知2, 自・情1)											
通級による指導の対象者数	3											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	21	1	8	1	2	5	ssw1(圏域配置外数)		10	50

(2) 柵津小学校

指定校名：柵津小学校，												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	40	2	45	2	31	1	49	2	28	1	38	2
特別支援学級	児童数12, 学級数2(知1, 自・情1)											
通級による指導の対象者数	0											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	12	1	2	1	1	1		8	28	

4. 指定校における取組概要

(1) 田中小学校 子ども達が安心して学べる環境を作るため、授業のユニバーサルデザイン化に重点を置き、以下の取り組みをおこなった。 ア. 教師に対して「授業に関する振り返りシート」を用いて、子どもが学びやすい環境について点検する。 イ. ユニバーサルデザイン化の授業に焦点をあてた公開授業を年間7回行い、授業研究を深める。 ウ. 特定のクラスに対して社会的な場面でのルールを学習するソーシャルスキルトレーニング（以下、「SST」という。）を継続的に実施し、今後校内で実施可能なやり方を模索する。 エ. 児童の実態把握のため、担任と保護者からの要請に基づき個別検査を実施し、一斉授業の中での指導に役立て、保護者とも子どもの姿を共有する。 (2) 柵津小学校 学習の基礎となる読み書きに焦点化し、多層指導モデル（以下、「MIM」という。）を活用した以下の取り組みをおこなった。 ア. 1年生の2クラスに対して定期的に読みの苦手な児童をみつけるためのテストであるMIM-PMを実施する。 イ. MIM-PMの結果をもとに、通常の授業、家庭学習を通して指導する。 ウ. MIM-PMの結果に影響すると思われる視覚認知、眼球運動に関する課題を1年生に実施する。 エ. 文部科学省の早期支援事業に参加している伊那市と連携し、通常の学級における多層指導モデルMIMの研修会を行う。 オ. 児童の実態把握のため、担任と保護者からの要請に基づき個別検査を実施し、一斉授業の中での指導に役立て、保護者とも子どもの姿を共有する。
--

5. 主な成果

(1) 田中小学校

ア. 通常の学級における授業のユニバーサルデザイン化について、職員が意識的に取り組む機会となった。その中で、以下のことが見えてきた。

(ア) シンプルさがわかりやすい授業につながる。

- a. 黒板の周りには何も掲示しない。
- b. 発問を焦点化する。
- c. 机上の持ち物を必要なものだけにする。
- d. 授業のねらいや流れを迷わせない。
- e. ノートの使い方が決まっていて、探したいことがすぐ探せる。
- f. やっていいことを先にはっきり示す、留意点は項目的に示す等、児童にとって学びやすい環境を整える

(イ) 言語活動の充実でコミュニケーション力をつける。

授業の中で図を描いて説明したり、式、文章で伝えたり、お互いの考え方だけでなく、表現方法を認めたり、友達のよさを取り入れたりしながら、表現の幅を広げる。

イ. 2年生の特定のクラスにおいて、継続的に SST に取り組む中で、子ども達は、相手の表情や身振りなどを見て相手の気持ちを考えること、相手のことを考えて自分の気持ちを伝えることを学んだ。その結果として児童間の些細なトラブルが減ったと担任が感じるようになった。

(2) 称津小学校

ア. MIM-PM を実施することにより、より客観的な児童の実態把握につながった。

イ. 読みのつまずきに対して、視覚化、動作化を用いた指導方法の実践及び適切な学習教材の使用、更には通常の授業の中で繰り返される適切なフィードバックにより、子ども達の読む力を伸ばすことができた。

ウ. MIM についての職員研修をおこなうことで、特殊音節に関する視覚化、動作化を用いた指導方法を校内全体で共有することができた。

6. 今後の課題と対応

(1) 田中小学校

通常の学級における授業のユニバーサルデザイン化の取り組みから見えてきたことについて、全職員に対しておこなった「授業に関する振り返りシート」の結果を踏まえて、田中小学校としてさらに充実した取り組みとするため、すでに取り組んでいることは継続し、重要だがなかなか取り組めていない事柄を精選し、学校全体として達成目標を決め実施していくことが必要である。さらに、SST についても、今年度は意図してパッケージ化されたものを使用した。多忙を極める教育現場で実施可能な形態を模索する必要性を痛感した。そのため、教育課程の中にいかに位置づけ、授業案等を作成し、効果的に実施する可能性を高める必要がある。

(2) 柅津小学校

1 年生において読みのアセスメントである MIM-PM を定期的実施し、MIM 教材を使用して読みの指導を継続する中で、最初は読みに困難さが認められた子の中で読む力が伸びていく子、指導を重ねてもなかなか変化が認められない子もいた。更にはクラス間での結果の差という観点も明らかになった。次年度以降は、なかなか効果があらわれにくい子どもへの指導方法の検討が必要であり、そのために MIM-PM の結果の変化が顕著であった児童への実践から分析することが必要である。

更に、児童の実態把握のため個別検査を実施し、より詳細な認知特性の把握をもとにした個別の教育支援計画を立て、それに基づいた支援を実施していく。

7. 問い合わせ先

組織名：長野県東御市

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| (1) 担当部署 | 東御市教育委員会教育課学校教育係 |
| (2) 所在地 | 長野県東御市 281-2 |
| (3) 電話番号 | 0268-64-5879 |
| (4) FAX 番号 | 0268-64-5878 |
| (5) メールアドレス | kyouiku@city.tomi.nagano.jp |